

## 6 福智町いまむかし

2000年もの昔に糸を撚るための紡錘車をはじめ機織の道具があり、絹織物もみつっていますが、化学繊維ができるまで衣服として主に使われたのは木綿や麻でした。

布の皺を伸ばす道具は火熨斗を用いました。そして、古代から電気アイロンが発明されるまでは、火鉢の炭火で温めるコテや、炭火を中に入れた炭火アイロンが使われていました。

### 茶釜(チャグマ)

お湯を沸かす道具です。  
茶道具として発達しました。  
鉄を溶かして作ったもので、  
近くでは、芦屋釜が有名です。

### アルミ製の羽釜(ハグマ)

カマドでご飯を炊いたり、お湯  
を沸かすのに使いました。

### 上 炭火アイロン

電気ではなく中に炭を入  
れ使いました。

### 下 電気アイロン



### 湯釜(カグマ)

お湯を沸かす道具です。  
中世のころはこのような瓦質土器が  
主に使われ、主に茶を飲むための湯沸  
かしとして使われていました。

### コテ

火鉢(ヒバチ)などで暖めて、衣類  
のしわを伸ばすのに使いました。  
アイロンの原型です。